

南アジア地域 ： ウルドゥー語・ヒンディー語・ベンガル語

新入生オリエンテーション

2024年4月2日(火)

1 学生組織と授業について

-a 学生組織 ← あなた方の所属です

言語文化学部 言語文化学科

国際社会学部 国際社会学科

-b 後期（3・4年次）専修コース ← 2年次で仮選択、3年次で登録

言語文化学部 → ○地域コース（南アジア）

○超域コース（言語学・言語情報処理学、言語教育学、通訳・翻訳、文学・文化理論、人間科学）

国際社会学部 → ○地域社会研究コース

○現代世界論コース

○国際関係コース

ただし、これは学習のコースであって、所属は[1-a]のままです

-c 授業について

- ・両学部の学生とも専攻言語として履修するウルドゥー語・ヒンディー語・ベンガル語の授業は、それぞれの専攻語ごとに設定されているモジュール・カリキュラムに従って下さい。卒業までの専攻言語の**必修単位数**が言語文化学部：28単位、国際社会学部：20単位、と異なる点をのぞいて、授業は全て両学部の学生に共通です。また、**諸地域言語**として他の言語を履修する途が開かれています。南アジア地域の隣接する各言語（例えば、専攻言語をウルドゥー語とする学生は諸地域言語としてヒンディー語およびベンガル語）も履修することが推奨されます。
- ・**専攻言語**の授業は、専任教員・外国人教員、非常勤講師が担当します。成績は1学期（ Semester ）毎1コマ毎に授業担当教員が付けます。
- ・**「南アジア地域基礎」**は、両学部の学生がともに授業を受けます。1年次には、各自の専攻語に関連する科目、つまりウルドゥー語専攻は登利谷先生、ヒンディー語専攻は足立先生、ベンガル語専攻は東城先生、のそれぞれ担当する授業を春学期、秋学期と続けて履修してください。2年目には、適宜選択して1コマもしくは2コマ履修し、合計6単位以上取得してください。最低6単位取得することが3年次進級の要件ですので、計画的に履修してください。
- ・**「基礎演習」**も両学部共通・専攻語単位で開講されますので、1年次の2学期に必ず履修しなければなりません。
- ・第3年次への進級要件は、他にも諸々ありますので、詳しくは、『履修案内』を熟読し、不明の点は教務課で訊いて下さい。
- ・第3年次からは、「専攻言語」担当教員以外のゼミにも参加できます。所属する本ゼミが、実質的に学習の中心となります。（また、本ゼミの担当教員が、いわば担任として皆さんの諸手続きの書類に押印することになります。）

## 2 教員・研究室

専任教員は、**研究院**という研究組織に属しますが、「専攻言語科目」「地域基礎科目」および「基礎演習科目」を担当する教員が、最も密接にあなた方と接することになります。何か用事があるときは、オフィスアワーに研究室を訪ねるか、メールで連絡を取るといいでしょう。★が南アジア地域代表、\*印が各言語代表です

### ○ウルドゥー語 (Urdu) 担当

\***萬宮健策 まみやけんさく** (教授:言語文化学部:地域コース:言語学、ウルドゥー語、スインディー語)

研究室: 845

出校日: ほぼ毎日 (ただし月曜は不定期)

オフィスアワー: 授業時もしくは、下記メール宛連絡で事前に調整をすること

E-mail: [k\\_mamiya@tufs.ac.jp](mailto:k_mamiya@tufs.ac.jp)

★**登利谷正人 とりやまさと** (講師:国際社会学部:地域社会研究コース:パキスタン・アフガニスタン地域研究・近現代史、パシュトゥーンの言語文化)

研究室: 851

出校日: 月、火、金曜日 (水曜日は不定期)

オフィスアワー: 授業時もしくは、下記メール宛連絡で事前に調整をすること

E-mail: [toriya@tufs.ac.jp](mailto:toriya@tufs.ac.jp)

**Khan, Amir Ali** アーミル・アリー・ハーン (特定外国語主任教員 (特任教授): 言語学、ウルドゥー語学)

研究室: 848

出校日: 月、火、水曜日

オフィスアワー: 授業時もしくは、下記メール宛連絡で事前に調整をすること

E-mail: [amiralikhan64@yahoo.com](mailto:amiralikhan64@yahoo.com)

ウルドゥー共同研究室 841+

開室日: ウルドゥー語担当の日本人教員に相談すること。

### ○ヒンディー語 (Hindi) 担当

\***足立享祐 あだちきょうすけ** (講師:国際社会学部:地域社会研究コース:ヒンディー語、歴史学、インド地域研究)

研究室: 802

出校日: 火、水、金曜日

オフィスアワー: 水・金 (12:00-12:30) その他はメールでの事前予約にて対応します。

E-mail: [adachi.kyosuke@tufs.ac.jp](mailto:adachi.kyosuke@tufs.ac.jp)

**Mishra, Rishikesh** リシケーシュ・ミッシュル (特定外国語主任教員 (客員准教授): ヒンディー語・文学)

研究室: 807

授業担当日: 月、水、木曜日

オフィスアワー: 授業時、もしくは事前にメール・LINEなどで連絡してください。

E-mail: 2024年4月の着任後、大学のウェブサイトに掲示します。

## ヒンディー共同研究室 840+

開室日：2024年4月現在、所蔵資料整理中につき開放していません。語劇衣装の貸し出しなど、共同研究室利用の必要がある場合は、ヒンディー語担当の足立先生に相談してください。

### ○ベンガル語 (Bengali) 担当

\*Sheikh, Tariq シェーク・タリク (准教授：言語文化学部：地域コース：ベンガル文化および文学)

研究室：506B

出校日：ほぼ毎日 (ただし金曜は不定期)

オフィスアワー：授業時もしくは、下記メール宛連絡で事前に調整をすること

E-mail: tariq.sheikh@tufs.ac.jp

東城文柄 とうじょうぶんぺい (准教授：国際社会学部：現代社会論コース：地域研究、地理情報科学 (GIS)、環境保全論)

研究室：506C

出校日：火、水、金曜日 (月曜日は不定期)

オフィスアワー：授業時または下記メール宛連絡にて事前に調整をすること

E-mail: tojo.b21@tufs.ac.jp

Sujit Kumar Mandal スジット・クマル・マンダル (特定外国語主任教員 (特任准教授))

研究室：701

出校日：月、火、木、金曜日 (水曜日は不定期)

オフィスアワー：随時 (ただし事前にメールにてメールで連絡すること)

E-mail: sujitk.mandal@tufs.ac.jp

## ベンガル語共同研究室 611+

開室日：授業等で使う以外の時間であれば、予習その他で使うことは可能です。ただし原則としてあらかじめ申し込んでもらうことになります。

+共同研究室前には、専攻語専用の掲示板がありますので、日常的に見るようにして下さい。

### 教務補佐員

教務補佐員とは、研究室の教育関係事務を処理するために、各研究室が雇用した非常勤職員(アルバイト)です。

### 非常勤講師

専任教員の他に非常勤で出講してくださる教員を非常勤講師といます。前期(1~2年)で関係するのは、今年度についてはウルドゥー語専攻で露口哲也先生、ヒンディー語で水野善文先生、佐藤裕之先生、プラシャント・パルデシ先生、今村泰也先生、澤田彰宏先生、ベンガル語専攻で青山若人先生、奥田由香先生、モイヌル・シャオン先生です。非常勤講師の先生方は、専任教員の研究室や非常勤講師控え室(研究講義棟2階北)に立ち寄られますが、必ずそこで会えるとは限りません。授業時間内に接触するのが、一番確実です。

## 大学院生

大学院生といっても、つまりは学生ですが、南アジア研究を志した専門家の卵であり、あなた方の先輩でもありますから、いろいろと相談に乗ってくれるはずです。現在、以下のように所属学生がおります。

	<u>博士後期課程</u>	<u>博士前期課程</u>
萬宮研究室	3名	4名
登利谷研究室	0名	0名
足立研究室	0名	0名
タリク研究室	0名	0名
東城研究室	0名	0名

### 3 日常事務について

- ・学籍関係（休学、退学など）書類、奨学金関連書類などへの署名・捺印について、1－2年次のあいだは、言語文化学部生は各専攻語代表教員（\*印）、国際社会学部生は南アジア地域代表教員（★印）からもらってください。3年次以降は、各自が本ゼミとして所属するゼミ担当教員からもらうことになります。その際、オフィスアワーを活用すると良いでしょう。
- ・「オフィスアワー」は、勉強ならびに大学生活全般の相談を受け付け、関連事務処理を行うためのものです（←学生課より配布の印刷物に詳細が書かれているはずです）。事前予約が必要だったりしますが、積極的に利用して下さい。

### 4 連絡・注意事項

- ・履修・学籍関係の具体的な規則は、TUFS 教務関連まとめサイト（2024年度学年初め）に掲載されている2024年度入学者用の履修案内 [http://www.tufs.ac.jp/student/lesson\\_course/2023tufsedu\\_spr.html](http://www.tufs.ac.jp/student/lesson_course/2023tufsedu_spr.html) を参照するか、教務課 ([kiroku@tufs.ac.jp](mailto:kiroku@tufs.ac.jp)) に連絡して下さい。入学年度が異なる学生は（場合によっては教員も）、規則を正確に理解しているとは限りません。後で慌てないように必ず担当者に確かめること。
- ・履修登録は、コンピューター処理で行います。「番号」・「記号」の記入ミスは致命的です。各人、抜かりなきように。
- ・成績取得状況は、各自の自己責任で管理すること。毎年、卒業時に慌てる人が出ています。「専攻言語」に関しては「（教務システム上の）ポートフォリオ」を活用してください。
- ・成績評価は、各専攻語、担当教員の提示する基準に抛ります。詳細は、各授業のシラバスを参照して下さい。疑問がある場合は、直接聞くこと。教務課は事務処理をするだけですので、聞きに行っても分かりません。
- ・海外旅行には、学生課への届け出が必要です。
- ・卒業生や在学生などが私的に開設している HP など で流布する不正確な情報に惑わされないように。疑問は、責任ある担当者に直接聞くこと。
- ・公式ホームページについて
- ・ウルドゥー語、ヒンディー語、ベンガル語各研究室で公式に運営しているホームページがあります。適宜ご参照下さい。これ以外の私的なホームページで類似の名称を名乗るものも見受けられますが、その情報には惑わされないよう、気を付けて下さい。

## 5 留学について

留学に関する詳しい仕組みについては、教務課窓口や履修案内等で各自確認して下さい。南アジア地域への留学制度として以下のようなものが挙げられます。

### ・インド政府国費による留学

語学学校（中央ヒンディー語学院 2018, 2017, 2016, 2015, 2014 年度各 3 名、2013 年度 2 名）。

大学への正規留学（ジャーミア・ミッリア・イスラーミーヤ大学：2014-17 年 1 名。ジャワーハルラル・ネルー大学：2017, 2016 年度各 3 名）

推薦には一定の要件（成績、出欠状況）がありますので、希望者全員が申請できるわけではありません。

### ・協定校への留学（派遣留学、私費留学）

インド：ジャドブプル大学（コルカタ：2014 年度より）

インド：デリー大学（デリー：2019 年度より）

インド：ジャワーハルラル・ネルー大学（デリー：2019 年度より）

インド：モウラーナ・アーザード国立ウルドゥー大学（ハイダラーバード：2020 年度より）

バングラデシュ：ダッカ大学（ダッカ：2013 年度より）

パキスタン：パンジャブ大学（ラホール：2014 年度より）

なお、欧米の協定校にも留学できますが、英語能力検定試験などの条件が課せられます。

### ・ショートビジット（短期留学）

ヒンディー語、ウルドゥー語：Zabaan School for Languages（デリー、2 月末から 3 週間）

ベンガル語：ジャドブプル大学（コルカタ、2 月末から 6 週間）

### ・私費留学

学籍関係（休学等）の事務手続きを行えば、基本的に自由に留学できます。研究室よりの公的な支援は、必要条件を満たしている限りにおいて行います。

過去の例ですと、トリブヴァン大学（ネパール）、ライデン大学（オランダ）、ヨーク大学（アイルランド）、ロンドン大学（イギリス）、エセックス大学（イギリス）などに留学した学生がいました。

## 6 共通参考図書について

個別の参考図書については、個々の教員の授業で指示があります。

## 7 東京外国語大学 南アジア研究センター

<http://www.tufs.ac.jp/ts/society/findas/new/>

東京外国語大学には、南アジア地域研究を推進する南アジア研究センターが設置されています。南アジアにおける諸言語の語学文学・社会運動・ジェンダーなどをテーマとして、さまざまな活動を行っています。活動の概要、詳細が掲載されています。どの行事も、誰でも参加できますので、関心があってもなくても、参加してみることをお勧めします。

(2024 年 4 月)